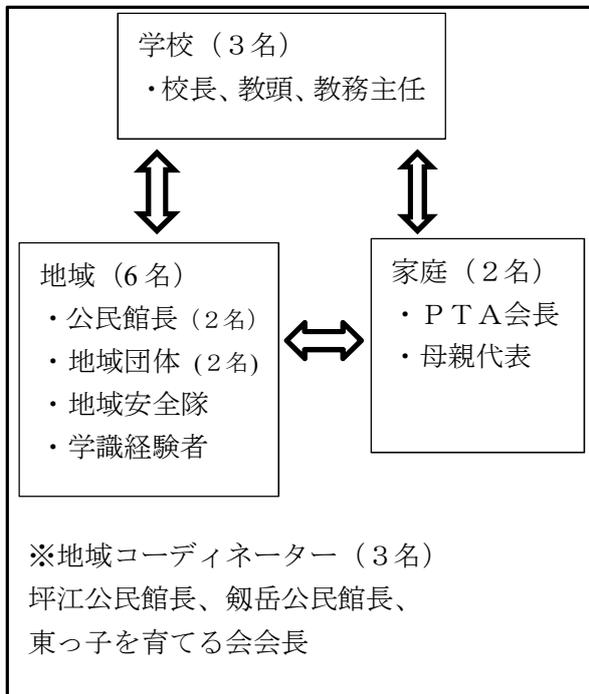


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- ・開催回数 2回
- ・開催日程 7月・2月  
(2月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文書でのやり取り)
- ・協議内容
  - ①地域の教育資源（人・もの）を活用した学校づくりについて
  - ②地域の活動への参加について
  - ③子どもの安全について
  - ④学校関係者評価の充実について
  - ⑤家庭における子育てについて

### (3) 協議会における成果と課題

ふるさと再発見ウォークでは、公民館長をはじめとして、見学地で説明ボランティアをしていただいた方、児童の安全を見守っていただいた保護者の方と連携し、積極的に交流を図り、地域の風土や歴史等について知ることができた。その時に作成した学習制作物を、かりん祭やアオッサ等で展示し、情報発信を行った。学校評価の中で、「地域の行事や地域での体験活動をすることの大切さを、先生方にもっと指導していただきたい。」というご意見があり、教職員が地域の行事や歴史に関心を持ち、また、地域のことを把握したうえで、児童が郷土への関心を高めていける体験活動をさらに工夫していきたい。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

本校校区は、あわら市北東部に位置し石川県境に接する山林田畑が広がる地域である。この自然豊かな地域の特徴を教育資源として生かし、地域とともに地域に学び、地域に誇りと愛着をもつ活動を実施した。

### (2) 活動の実際

- ① 地域再発見ウォーク坪江(劔岳地区)の取組み 10月31日 全校生134名

(様式3)

本校の前身となる中川・熊坂・劔岳の3つの小学校区は、交通量の激しい国道と、山地等の自然環境の影響により、現在も子どもの自然な交流が行われにくい状況にある。そこで一昨年度から「地域再発見ウォーク」と称し、全校児童が縦割り班で地区のウォーキングを行っている。昨年度の中川区域のウォークラリーに引き続いて、本年度は劔岳区域を舞台としてウォーキングを行った。当日は、好天に恵まれ、予定した内容で実施することができた。梶、清滝、東山、それぞれの見学地でボランティアの方が説明をしてくださり、地域の風土や歴史等について知ることができた。児童は縦割り班で活動しながら、初めて見る風景や建造物、地域に生息する生き物などに興味を示し、各地区でのウォークを楽しんだ。また、保護者の方が11名参加してくださり、児童とともに地域の散策を楽しんだり、安全な歩行を見守ってくださったりした。5時間目に行った新聞づくりでは、自分の目で見えてきたことや体験したことを意欲的にまとめる姿が見られた。



## ② 郷土料理を食べる会の取組み 12月23日 6年生 20名

例年は、そばを打つ伝統の技能を体験する活動を実施していたが、今年度はそばアレルギーの生徒がいるため郷土料理を食べる会に変更した。坪江エプロンの会に指導を依頼するとともに、必要な材料も準備していただいた。当日は本校調理室を会場として、講師の方の指導のもと全員が「あぶらげご飯、呉汁、白菜の漬物」作りを体験した。坪江エプロンの会の方々に、児童が大豆をすり鉢ですったり、厚揚げを1cmずつ切ったりする作業のサポートに当たっていただいた。最後に出来上がった料理を参加者全員で食した。



## (3) 地域コーディネーターの活動概要

劔岳公民館長、区長会長には、地元区長との連絡調整や備品の貸与などの協力を受けた。地域安全隊長は、多数の見守りボランティア出動を配慮いただいた。

## (4) 特に工夫した事項

- ・子どもの直接体験が、地域再発見の目を養うことにつながるように運営。
- ・校区を中心とした、地域の方への活動周知と協力依頼を入念に実施。
- ・体験活動を行うにあたっての事前安全確認。

## (5) 成果と課題

いずれの活動も、児童が地域の一員として郷土に思いを寄せ、地域の人に感謝する心を育てるうえで有意義であった。今後も児童が郷土への関心を高めていける体験活動をさらに工夫したい。また、職員による事前の現地視察や安全確保計画を入念に行うこと、活動終了後の地域に対する情報発信についてもさらに工夫をしていきたい。